

# 藤木地区解説

藤木という地名は室町時代の文書にでてくる。藤木の名の由来は湯野に大きな藤の木があって、その枝が藤木の地まで伸びていたとか、河内社に大きな藤の木があったとか書かれているものもあるが、現存する藤の大木はなく、またことさらに藤が多い地でもない。藤木は矢井川流域、立石川流域に広く開けた盆地である。比較的穏やかな気候に恵まれた農村地帯で、紙漉きも盛んであった。今は跡のみ残る万願寺は月輪寺と同時代に創建されたと考えられる古いものである。

## ①老人憩いの家

この地域の方々の集会所です。駐車場を借りましょう。

## ②佐波川豆腐

瓦に立派な龍がのっている家がある。その前が豆腐/こんにやくの製造所。通常は小売をするところではないが、ご主人がいらっしゃれば、豆腐/こんにやくが分けてもらえる。藤木の綺麗な水で作られる手作りの製品は限られた店にしか卸されない貴重品。

こんにやくは生でよし、煮てよしの絶品。

## いぼころり観音(堂河内子安観音 一説に馬頭観音)

この観音様にお参りすると、いぼや吹き出物がころりと取れると評判になり、いつしかいぼころり観音と呼ばれるようになった。圃場整備で道が寸断されわかりにくい。知っている人に案内を頼みたい。

## ③重田木型

おもちゃ工房。木を使った暖かい手ざわりが身上。注文製造、独創制作。

## ④草酔庵

刻字製造。庭には様々な花が植えられ、花見の客も歓待される。モッコウバラ、アヤメ、菖蒲、藤、エビネラン 等

## ⑤石橋

コンクリートを今のように使わなかった時代、人力車が通行するのに土や木の橋では傷むので石で作っていたそうです。石屋さんがあり、必要な寸法で角石を調達できた。昭和10年ごろ。

## ⑥万願寺跡地藏堂

地藏菩薩(菩薩立像、10世紀頃の作)と二天王(12世紀頃の作)がある。地藏菩薩は万願寺の本尊であったが、昔、万願寺の住職が悪人の為に殺されたため、閉寺し、山手にお堂を建て安置した。この場所はまんが悪い(縁起が悪い)と場所を変えて立てたのが今の松陰寺と伝えられる。

## ⑦早乙女塚

姉妹が田植えをしていたとき、山越えの早馬の邪魔だと武士に切り捨てられたという。これを哀れんだ村人が小山に吊った。今は小さく片寄せられている。

## ⑧松陰寺

ここにある弥勒尊仏は庵が弥勒谷にあったところからのもので、豊臣の時代にここにあった庵に移したと記された縁起書がある。

また松陰寺そのものの創建の記録も詳しいものはないが、龍福寺13世門徹俊宗大和尚を開山となし、以来20世を数え330余年となる。

## ⑨徳地南農免道路

上藤木より、小河内の南山側に片面1車線の立派な道路が横切る。上藤木からは堀、防府、山口につながり(未開通)、小河内からは湯野方面につながる。未だ幹線道路に完全につながっていないので、交通量は少ない。

しかし、高い位置にあるため、素晴らしい眺めである。

遠く高く串の文殊岳、石ヶ岳、目の下には棚田や明るい山里が望める。

## ⑩農免道路から立石部落に下りる路への分岐点。

少し上藤木側に傾いているので見逃さないように注意。ここから直接立石におりるとポイント⑫まで12分くらいでかなりの近道となる。

## ⑪ポイント辺り

農免道路が周南市にかかる直前に小河内部落に下りる道が左側にいくつかある。いずれの道も立石川沿いの道に合流する。

いくつか民家が点在する辺りを下っていくと、両側の山が狭まり樹木が近寄って暗くなっていく。藤木は明るく開けた道がほとんどなので、一転、溪流沿い、林間でその変化が楽しい。

この辺りに、右の山側に石段が見え高いところに河内様がある。

河内様から道、川を挟んだところに観音様のお堂がある。

溪流沿いの林間の道がしばらく続く。

再び明るい盆地に抜けると立石部落。ここからは道なりに⑫⑬のポイントへ。矢井川を渡る橋をすぎると、細田バス停がある⑬ポイントである。

## ⑬ポイント辺り

道路が広いが、すぐ狭くなる。やや登り加減の道を行くと出発点の老人憩いの家に着く。